



～「やり方」ではなく、「あの子」の話をしてみよう～

会議や職員間でのコミュニケーションで「給食指導のことを話し合うのが難しい」という声をこれまで数多く聞いてきました。そんなときに思い出してほしいヒントを今月号では紹介します。

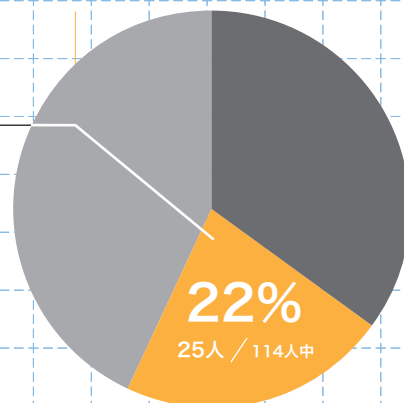
調査では「他の先生と意見が合わない」が悩みの2位

以前行ったアンケート調査では、給食指導に関する悩みとして

**「給食指導に対する園や学校の方針、
また他の先生との意見が合わない」**

というのが2位でした。（※詳細はVol.54に掲載）
言いたいことがあっても言えない、という状況は珍しくありません。

話し合いが難しいのは、あなただけではありません。
みんな困っているのです。



給食指導のことを話し合うコツは？

△ まとまりにくいパターン

話しているテーマ

**「どんなやり方がいいか」に
傾倒しているとき**

完食を
目指すべきか

促すのは
どこまでOKか

食育として
どうあるべきか

- 考え方は人それぞれ。決まった正解がないものもあります。
- 決着がつかず、堂々巡りになりやすい性質があります。
- 結果として、声の大きい人・立場が上の人の意見が通りやすく、反対しにくいので、決まっても現場では元に戻ってしまいやすいです。

○ まとまりやすいパターン

話しているテーマ

**「あの子がどうしたら楽になるか」が
議論の中心になっているとき**

〇〇さんは
量を食べられ
ないよね

どうして
食べられないん
だろうね？

こうしてみたら
良いのかも

- 考え方はそれぞれ違っても、「その子の姿」はみんなで同じものを見られます。
- だからこそ、意見がぶつかりにくい性質があります。
- 立場に関係なく発言しやすく、工夫を試してみる話なので、反対意見も起きにくいです。

POINT

何を議論の中心に置くかで、話し合いのしやすさは大きく変わります。話し合いを「正解を決める時間」ではなく
「あの子のことをみんなで一緒に考える時間」と考えてみましょう。

詳しい解説記事は
こちら！

